

TUSループリック (薬学部 薬学科：2025年度新入生)

評価項目		ループリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	幅広い教養と広い視野	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けている。	0と1の間	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養に基づいた視野から専門分野における課題を理解し、説明することができる。	1と2の間	幅広い教養と俯瞰的視野に基づいて、専門分野における課題に対する解決方策の立案ができる。	2と3の間	幅広い教養と俯瞰的視野に基づいて課題解決を行い、結果の検証、評価、改善を行うことができる。
b	医療に携わる者としての高い倫理観と使命感、ふさわしい態度	医療に携わる者としての高い倫理観と使命感を身に付けている。	0と1の間	医療に携わる者としての高い倫理観と使命感をもとに行動できる。	1と2の間	医療に携わる者としての社会的使命を果たす姿勢を周囲に提示することができる。	2と3の間	医療に携わる者としての高い倫理観と使命感をもとに行動し、医療関係者として社会的使命を果たす姿勢を示すことができる。
c	薬剤師の職能の基盤となる専門的な知識と関連する技能	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度を身に付けている。	0と1の間	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度について理解し、説明することができる。	1と2の間	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度に基づいた行動をとり、周囲にその模範を示すことができる。	2と3の間	医療現場において、薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度をもとに応用的な行動をとることができる。
d	コミュニケーション能力と国際性	医療に携わる者としての専門知識や教養を身に付けている。	0と1の間	専門知識や教養に関する国際的な視野を養うことができている。	1と2の間	専門知識や教養をもとに他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。	2と3の間	専門知識や教養をもとに様々な背景を持つ他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。
e	問題発見、解決能力、最先端の医療や科学に関する知識	最先端の医療や科学に関する知識を積極的に取り入れる姿勢ができています。	0と1の間	最先端の医療や科学に関する知識について説明することができる。	1と2の間	最先端の医療や科学に関する知識に基づいて課題解決に向けた方策の立案ができる。	2と3の間	最先端の医療や科学に関する知識に基づいた課題解決を行い、検証、評価、改善を行うことができる。

TUSループリック (薬学部 生命創薬科学科：2025年度新入生)

評価項目		ループリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	幅広い教養と広い視野	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けている。	0と1の間	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養に基づいた視野から専門分野における課題を理解し、説明することができる。	1と2の間	幅広い教養と俯瞰的視野に基づいて、専門分野における課題に対する解決方策の立案ができる。	2と3の間	幅広い教養と俯瞰的視野に基づいて課題解決を行い、結果の検証、評価、改善を行うことができる。
b	医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感	医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感を身に付けている。	0と1の間	医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感をもとに行動できる。	1と2の間	医薬品の創製に携わる者としての社会的使命を果たす姿勢を周囲に提示することができる。	2と3の間	医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感を基に行動し、医療関係者として社会的使命を果たす姿勢を示すことができる。
c	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎学力、技術及び創薬科学、生命薬学、生命薬学に関する専門知識	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎学力、技術及び創薬科学、生命薬学に関する専門知識	0と1の間	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎学力、技術及び創薬科学、生命薬学に関する専門知識に基づいて、専門分野における課題を理解し、説明することができる。	1と2の間	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎学力、技術及び創薬科学、生命薬学に関する専門知識に基づいて、専門分野における課題に対する解決方策の立案ができる。	2と3の間	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎学力、技術及び創薬科学、生命薬学に関する専門知識に基づいて課題解決を行い、その検証、評価、改善を行うことができる。
d	コミュニケーション能力と国際性	研究に携わる者としての専門知識や教養を身に付けている。	0と1の間	専門知識や教養に関する国際的な視野を養うことができる。	1と2の間	専門知識や教養をもとに他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。	2と3の間	専門知識や教養をもとに様々な背景を持つ他者と円滑なコミュニケーションをとり、社会に貢献することができる。
e	問題発見、解決能力、最先端の医療や科学に関する知識	最先端の医療や科学に関する知識を積極的に取り入れる姿勢ができています。	0と1の間	最先端の医療や科学に関する知識をもとに課題を発見し、問題点について説明することができる。	1と2の間	最先端の医療や科学に関する知識に基づいて課題解決に向けた方策の立案ができる。	2と3の間	最先端の医療や科学に関する知識に基づいた課題解決を行い、検証、評価、改善を行うことができる。